

社団
法人 北海道美術館協力会

札幌市中央区北2条西17丁目 TEL・FAX 011-644-4025

http://www.artepia.or.jp



《シープ・チェア》

デザイン：横田哲郎 2008(平成20)年／制作：株式会社インテリアナス 2011(平成23)年 (道立旭川美術館蔵)

不思議なシルエットの椅子である。タイトル《シープ・チェア》からもわかるように、本作は羊のフォルムをイメージしてデザインされている。後ろ脚から肘掛け、背もたれにかけて続く滑らかな曲線は、見る角度によって多彩な表情を生み出す。座つてみると、身体が後ろから包み込まれ、ゆったりと落ち着いた時間が流れていくようである。

本作のデザインは横田哲郎、制作は旭川の隣町、東川町の家具メーカー、株式会社インテリアナスによる。

横田は1969年東京都生まれ。東京藝術大学デザイン科を卒業後木工を学び、家具職人として修行を積む。その後設計事務所や家具メーカーでデザインの仕事を経て2006年に独立し、デザイナーとして活動中。

旭川では1990年から3年に1度、国際家具デ

ザインフェア旭川（IFDA）という家具デザインのコンペが開催されている。国内外で活躍するデザイナーが競い合うハイレベルな大会だ。本作はIFDA2008において横田がブロンズリーフ賞を受賞し、それをインテリアナス社が2011年に商品化したもの。

座面部は削り出しによって、後ろ脚から肘掛け、背もたれにかけては、成型合板によって形作られている。デザインをもとに構造を設計し、商品化するまでに3年の月日を要した。

流麗なデザインと、それを実現するための丹念な作業の積み重ねによって生まれた本作。2013年4月7日まで道立旭川美術館で開催中の「木の造形100選」にて出品中で、皆様には実際に座っていたくことができる。

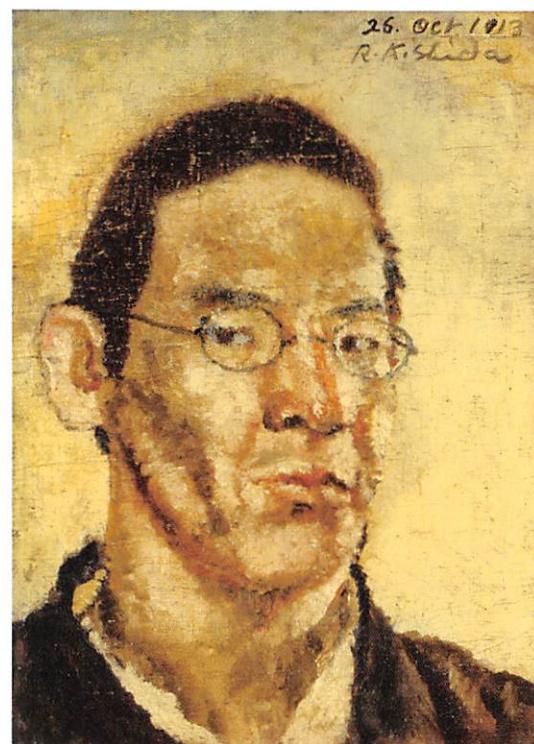
(北海道立旭川美術館 学芸員 及川昌樹)

R.K. Shida

劉生、再発見！ 岸田劉生の軌跡

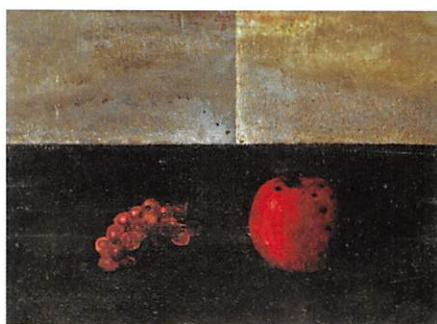
油彩画、装丁画、水彩画などを中心に

北海道立帯広美術館学芸員 石尾乃里子



《自画像》1913(大正2)年 油彩・キャンバス

「写実」と「装飾」
こうした振幅のある画



《静物(林檎と葡萄)》1919(大正8)年 油彩・板

劉生 || 麗子像？
岸田劉生。この画家の名前を聞いて、真っ先におかっぱ頭の“麗子像”を思い浮かべる方は少なくない

でしよう。限りなく精緻な筆づかい、油絵具特有の濃厚な色彩によってとらえられた愛娘の姿は、“油彩画家”としての劉生のイメージを形づくる存在となっています。

しかし、劉生の生みだしたもののはそればかりではありませんでした。帯広美術館で4月12日から6月1日まで開催する「画家 岸田

20歳のころ、文芸同人雑誌『白樺』との出会いをきっかけに、セザンヌやゴッホら後期印象派から影響を受け制作するようになりますが、やがてデューラーら北方ルネサンスの様式を手



《村娘之図》
1919(大正8)年 木炭・パステル・水彩・紙

がかりとした精緻な写実表現へと転じます。深い静謐さにみちた静物画や麗子像に代表されるような肖像画を繰り返し描いたのも、この時代でした。

さらに後年には一転して、宋元画や初期肉筆浮世絵、南画などの東洋的な美に関心を寄せ、それを自らの作品に反映させようと試みます。その探求は、1929(昭和4)年に病でこの世を去るまで続きました。

風の変遷とともに、劉生の手がけたジャンルの多様性が、いま注目を集めています。よく知られた油彩画ばかりではなく、水彩・素描、日本画、版画、そして武者小路実篤らとの交友を背景として、宋元画や初期肉筆浮世絵、南画などの東洋的な美に関心を寄せ、それを自らの作品に反映させようと試みます。その探求は、1929(昭和4)年に病でこの世を去るまで続きました。



掲載作品はすべて笠間日動美術館蔵。

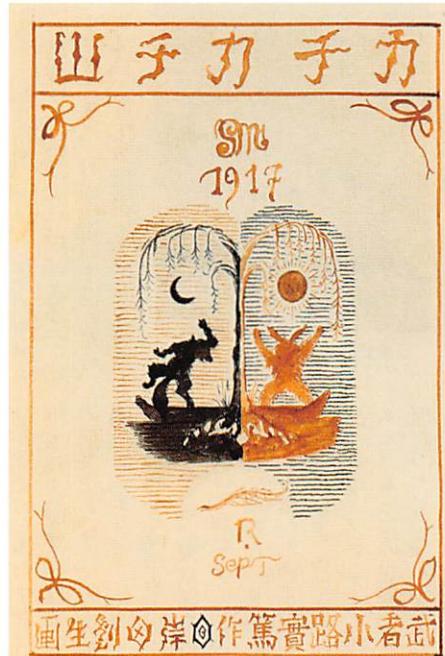
た本の装丁画も数多く残しているのです。そこには、劉生が「写実」とともに芸術の根本として大切にした「装飾」にかかる意志が色濃く反映されています。



《武者小路実篤『友情』特装本表紙》
1920(大正9)年 木版・紙

劉生はこう語ります。
「美術という物は元来人間の想像の華である。その根本は装飾の意志本能にある。美術とは世界の装飾にあるともいえる。美は外界にはない、人間の心の裏にある。それが外界の形象をかりて表われると自然の美となりその表現が写実となる。それが外界の形をか

りらずにすなおにじかに内か
らうねり出て来たものが、
装飾美術になる」(「想像と
装飾の美」酒井忠康編『岸
田劉生隨筆集』岩波書店、
1917(大正6)年 水彩・紙)



《『カチカチ山』(武者小路実篤作 岸田劉生画)》
1917(大正6)年 水彩・紙

1996年。原典は『国粹』第2号、1920年)と。

内なる美を、より直接的につかまえること。この言葉には、劉生が油彩画のみならず、日本画や水彩・素描などの技法、あるいは本を装う仕事にとりくんだひとつつの理由が示唆されているようにも思われるのです。

劉生、再発見！
今回の展覧会では、笠間自動美術館のコレクションによ



《武者小路実篤『友情』特装本見返し》
1920(大正9)年 木版・紙

り、劉生が生涯に生みだした多岐にわたる作品およそ130点を一堂に展示します。また北海道立文学館、北海道立図書館が所蔵する貴重な本をあわせてご紹介するとともに、会期中には、彼の手がけた装丁画の世界に親しんでいただくためのレクチャーやワークショップなど関連プログラムの開催も予定しています。

合い言葉は、「劉生、再発見！」皆

さまも、これまでにはあまり知られてこなかつた劉生を探しに、ぜひ会場へお出かけください。



《丹畫麗子像》制作年不詳 墨・丹・紙



近代美術館

マルク・シャガール展

6月29日(土)～8月25日(日)

シャガールといえば、宙を舞う男女や動物、現実離れした鮮烈な色彩など、その幻想的な作風の絵画を思い浮かべる人も多いでしょう。日本でも、これまで毎年のように展覧会が開催され、とりわけ人気が高い画家のひとりです。しかし、シャガールは第二次世界大戦後の後半生、パリ・オペラ座やニューヨーク国連本部をはじめ、大学、議会、教会など公共的な空間を飾るモニュメント作品（記念碑的作品）を多くてかけています。大空間を飾るこれらの作品は、壁画や天井画、ステンドグラス、陶壁画、モザイク画、タピスリー



パリ・オペラ座天井画を制作中の
シャガール 1964年
(撮影:イジス) © IZIS Bidermanas

など多彩な技法と形式によるものであり、

ケーキの作品に挑み続けたシャガールの旺盛な制作意欲と才能には驚くべきものがあります。本展では、華やかなパリ・オペラ座の天

井画から、フランス各地の教会を飾るステンドグラスまで、シャガールの代表的なモニュメント作品を初めて本格的に紹介するものです。

旭川美術館

『詩とメルヘン』のなかまたち

4月19日(金)～5月29日(水)

やなせたかしと
『詩とメルヘン』のなかまたち

本展は、
初期の1
970年
代の「詩
とメルヘン」

に創刊された詩文と絵の雑誌。デザイナー！漫画家・絵本作家・作詞家としてマルチな活躍をしていた、やなせたかしが表紙やイラストを担当するとともに、作品を厳選。親しみやすく平明なリリズムにより多くの読者に愛された雑誌でした。

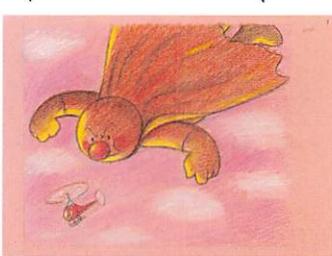
イラストでは、新人を発掘するとともに、雑誌『ガロ』や『anan』などで活躍する同時代の美術家に依頼。みずみずしさと成熟という相反する魅力をあわせもつ雑誌でした。アニメのキャラクター「アンパンマン」も、大人のマルヘン「怪傑アンパンマン」として本

誌に登場
していました。

本展は、
初期の1
970年
代の「詩
とメルヘン」

に焦点を
当て、表
紙原画や
「怪傑アン
パンマン」

原画、同誌を彩った代表的な画家・イラストレーターの原画によって、70年代の抒情的世界をご覧いただこうとするものです。絵本コーナーや、お絵かきコーナー、記念撮影コーナーもございます。春のひと時、ぜひご家族でたのしい時間を過ごしてください。



やなせたかし『連載熱血メルヘン怪傑アンパンマン』
1975(昭和50)年(1977年サンリオ刊)
やなせたかし記念アンパンマンミュージアム振興財団蔵

三岸好太郎美術館

生誕110年記念 三岸好太郎展

9月14日(土)～11月17日(日)

大正末から昭和初期、貪欲に絵画の新潮流を摂取し画壇をかけぬけた三岸好太郎（1903～1934年）。31歳の短い生涯ながら、その画業は日本近代美術史に光を放ち続けて

また同じく晩年の人気作「雲の上を飛ぶ蝶」（1934年、東京国立近代美術館蔵）も出品に向けて調整中。死を目前にした三岸の不可思議で華麗な夢を語る本作が加われば、一層輝きを増した画業の全貌が姿を現すことで



三岸好太郎《海と射光》1934年
福岡市美術館蔵

函館美術館

夜明けまえ
知られざる日本写真開拓史

函館美術館

5月18日(土)～7月14日(日)

大正末から昭和初期、貪欲に絵画の新潮流を摂取し画壇をかけぬけた三岸好太郎（1903～1934年）。31歳の短い生涯ながら、その画業は日本近代美術史に光を放ち続けて

また同じく晩年の人気作「雲の上を飛ぶ蝶」（1934年、東京国立近代美術館蔵）も出品に向けて調整中。死を目前にした三岸の不可思議で華麗な夢を語る本作が加われば、一層輝きを増した画業の全貌が姿を現すことで

幕末の開港と時を同じくして、日本にもたらされた写真は、新たな視覚と現実感を映し出しました。本展では、東京都写真美術館を中心とした共同企画館による、北海道、東北の公共機関の持つ写真作品、資料を調査、研究をもとに、それらの収蔵作品や、東京都写真美術館および本大学芸術学部の収蔵作品をあわ



田本研造《土方歳三像》
明治2年頃 函館市中央図書館蔵

せ、現存する幕末～明治期の貴重なオリジナルの写真作品、資料を体系化して展示します。新発見や多くの未公開作品を含んで、日本の写真史の新たなページをひらくべき、19世紀の日本人の姿を、観覧者の眼前に躍動させることでしょう。

函館美術館

夜明けまえ
知られざる日本写真開拓史

函館美術館

5月18日(土)～7月14日(日)

大正末から昭和初期、貪欲に絵画の新潮流を摂取し画壇をかけぬけた三岸好太郎（1903～1934年）。31歳の短い生涯ながら、その画業は日本近代美術史に光を放ち続けて

また同じく晩年の人気作「雲の上を飛ぶ蝶」（1934年、東京国立近代美術館蔵）も出品に向けて調整中。死を目前にした三岸の不可思議で華麗な夢を語る本作が加われば、一層輝きを増した画業の全貌が姿を現すことで

幕末の開港と時を同じくして、日本にもたらされた写真は、新たな視覚と現実感を映し出しました。本展では、東京都写真美術館を中心とした共同企画館による、北海道、東北の公共機関の持つ写真作品、資料を調査、研究をもとに、それらの収蔵作品や、東京都写真美術館および本大学芸術学部の収蔵作品をあわ

せ、現存する幕末～明治期の貴重なオリジナルの写真作品、資料を体系化して展示します。新発見や多くの未公開作品を含んで、日本の写真史の新たなページをひらくべき、19世紀の日本人の姿を、観覧者の眼前に躍動させることでしょう。

函館美術館

夜明けまえ
知られざる日本写真開拓史

函館美術館

5月18日(土)～7月14日(日)

大正末から昭和初期、貪欲に絵画の新潮流を摂取し画壇をかけぬけた三岸好太郎（1903～1934年）。31歳の短い生涯ながら、その画業は日本近代美術史に光を放ち続けて

また同じく晩年の人気作「雲の上を飛ぶ蝶」（1934年、東京国立近代美術館蔵）も出品に向けて調整中。死を目前にした三岸の不可思議で華麗な夢を語る本作が加われば、一層輝きを増した画業の全貌が姿を現すことで

幕末の開港と時を同じくして、日本にもたらされた写真は、新たな視覚と現実感を映し出しました。本展では、東京都写真美術館を中心とした共同企画館による、北海道、東北の公共機関の持つ写真作品、資料を調査、研究をもとに、それらの収蔵作品や、東京都写真美術館および本大学芸術学部の収蔵作品をあわ

せ、現存する幕末～明治期の貴重なオリジナルの写真作品、資料を体系化して展示します。新発見や多くの未公開作品を含んで、日本の写真史の新たなページをひらくべき、19世紀の日本人の姿を、観覧者の眼前に躍動させることでしょう。

函館美術館

夜明けまえ
知られざる日本写真開拓史

函館美術館

5月18日(土)～7月14日(日)

大正末から昭和初期、貪欲に絵画の新潮流を摂取し画壇をかけぬけた三岸好太郎（1903～1934年）。31歳の短い生涯ながら、その画業は日本近代美術史に光を放ち続けて

また同じく晩年の人気作「雲の上を飛ぶ蝶」（1934年、東京国立近代美術館蔵）も出品に向けて調整中。死を目前にした三岸の不可思議で華麗な夢を語る本作が加われば、一層輝きを増した画業の全貌が姿を現すことで

幕末の開港と時を同じくして、日本にもたらされた写真は、新たな視覚と現実感を映し出しました。本展では、東京都写真美術館を中心とした共同企画館による、北海道、東北の公共機関の持つ写真作品、資料を調査、研究をもとに、それらの収蔵作品や、東京都写真美術館および本大学芸術学部の収蔵作品をあわ

せ、現存する幕末～明治期の貴重なオリジナルの写真作品、資料を体系化して展示します。新発見や多くの未公開作品を含んで、日本の写真史の新たなページをひらくべき、19世紀の日本人の姿を、観覧者の眼前に躍動させることでしょう。

函館美術館

夜明けまえ
知られざる日本写真開拓史

函館美術館

5月18日(土)～7月14日(日)

大正末から昭和初期、貪欲に絵画の新潮流を摂取し画壇をかけぬけた三岸好太郎（1903～1934年）。31歳の短い生涯ながら、その画業は日本近代美術史に光を放ち続けて

また同じく晩年の人気作「雲の上を飛ぶ蝶」（1934年、東京国立近代美術館蔵）も出品に向けて調整中。死を目前にした三岸の不可思議で華麗な夢を語る本作が加われば、一層輝きを増した画業の全貌が姿を現すことで

幕末の開港と時を同じくして、日本にもたらされた写真は、新たな視覚と現実感を映し出しました。本展では、東京都写真美術館を中心とした共同企画館による、北海道、東北の公共機関の持つ写真作品、資料を調査、研究をもとに、それらの収蔵作品や、東京都写真美術館および本大学芸術学部の収蔵作品をあわ

せ、現存する幕末～明治期の貴重なオリジナルの写真作品、資料を体系化して展示します。新発見や多くの未公開作品を含んで、日本の写真史の新たなページをひらくべき、19世紀の日本人の姿を、観覧者の眼前に躍動させることでしょう。

函館美術館

夜明けまえ
知られざる日本写真開拓史

函館美術館

5月18日(土)～7月14日(日)

大正末から昭和初期、貪欲に絵画の新潮流を摂取し画壇をかけぬけた三岸好太郎（1903～1934年）。31歳の短い生涯ながら、その画業は日本近代美術史に光を放ち続けて

また同じく晩年の人気作「雲の上を飛ぶ蝶」（1934年、東京国立近代美術館蔵）も出品に向けて調整中。死を目前にした三岸の不可思議で華麗な夢を語る本作が加われば、一層輝きを増した画業の全貌が姿を現すことで

幕末の開港と時を同じくして、日本にもたらされた写真は、新たな視覚と現実感を映し出しました。本展では、東京都写真美術館を中心とした共同企画館による、北海道、東北の公共機関の持つ写真作品、資料を調査、研究をもとに、それらの収蔵作品や、東京都写真美術館および本大学芸術学部の収蔵作品をあわ

せ、現存する幕末～明治期の貴重なオリジナルの写真作品、資料を体系化して展示します。新発見や多くの未公開作品を含んで、日本の写真史の新たなページをひらくべき、19世紀の日本人の姿を、観覧者の眼前に躍動させることでしょう。

函館美術館

夜明けまえ
知られざる日本写真開拓史

函館美術館

5月18日(土)～7月14日(日)

大正末から昭和初期、貪欲に絵画の新潮流を摂取し画壇をかけぬけた三岸好太郎（1903～1934年）。31歳の短い生涯ながら、その画業は日本近代美術史に光を放ち続けて

また同じく晩年の人気作「雲の上を飛ぶ蝶」（1934年、東京国立近代美術館蔵）も出品に向けて調整中。死を目前にした三岸の不可思議で華麗な夢を語る本作が加われば、一層輝きを増した画業の全貌が姿を現すことで

幕末の開港と時を同じくして、日本にもたらされた写真は、新たな視覚と現実感を映し出しました。本展では、東京都写真美術館を中心とした共同企画館による、北海道、東北の公共機関の持つ写真作品、資料を調査、研究をもとに、それらの収蔵作品や、東京都写真美術館および本大学芸術学部の収蔵作品をあわ

せ、現存する幕末～明治期の貴重なオリジナルの写真作品、資料を体系化して展示します。新発見や多くの未公開作品を含んで、日本の写真史の新たなページをひらくべき、19世紀の日本人の姿を、観覧者の眼前に躍動させることでしょう。

函館美術館

夜明けまえ
知られざる日本写真開拓史

函館美術館

5月18日(土)～7月14日(日)

大正末から昭和初期、貪欲に絵画の新潮流を摂取し画壇をかけぬけた三岸好太郎（1903～1934年）。31歳の短い生涯ながら、その画業は日本近代美術史に光を放ち続けて

また同じく晩年の人気作「雲の上を飛ぶ蝶」（1934年、東京国立近代美術館蔵）も出品に向けて調整中。死を目前にした三岸の不可思議で華麗な夢を語る本作が加われば、一層輝きを増した画業の全貌が姿を現すことで

幕末の開港と時を同じくして、日本にもたらされた写真は、新たな視覚と現実感を映し出しました。本展では、東京都写真美術館を中心とした共同企画館による、北海道、東北の公共機関の持つ写真作品、資料を調査、研究をもとに、それらの収蔵作品や、東京都写真美術館および本大学芸術学部の収蔵作品をあわ

せ、現存する幕末～明治期の貴重なオリジナルの写真作品、資料を体系化して展示します。新発見や多くの未公開作品を含んで、日本の写真史の新たなページをひらくべき、19世紀の日本人の姿を、観覧者の眼前に躍動させることでしょう。

函館美術館

夜明けまえ
知られざる日本写真開拓史

函館美術館

5月18日(土)～7月14日(日)

大正末から昭和初期、貪欲に絵画の新潮流を摂取し画壇をかけぬけた三岸好太郎（1903～1934年）。31歳の短い生涯ながら、その画業は日本近代美術史に光を放ち続けて

また同じく晩年の人気作「雲の上を飛ぶ蝶」（1934年、東京国立近代美術館蔵）も出品に向けて調整中。死を目前にした三岸の不可思議で華麗な夢を語る本作が加われば、一層輝きを増した画業の全貌が姿を現すことで

幕末の開港と時を同じくして、日本にもたらされた写真は、新たな視覚と現実感を映し出しました。本展では、東京都写真美術館を中心とした共同企画館による、北海道、東北の公共機関の持つ写真作品、資料を調査、研究をもとに、それらの収蔵作品や、東京都写真美術館および本大学芸術学部の収蔵作品をあわ

せ、現存する幕末～明治期の貴重なオリジナルの写真作品、資料を体系化して展示します。新発見や多くの未公開作品を含んで、日本の写真史の新たなページをひらくべき、19世紀の日本人の姿を、観覧者の眼前に躍動させることでしょう。

函館美術館

夜明けまえ
知られざる日本写真開拓史

函館美術館

5月18日(土)～7月14日(日)

大正末から昭和初期、貪欲に絵画の新潮流を摂取し画壇をかけぬけた三岸好太郎（1903～1934年）。31歳の短い生涯ながら、その画業は日本近代美術史に光を放ち続けて

また同じく晩年の人気作「雲の上を飛ぶ蝶」（1934年、東京国立近代美術館蔵）も出品に向けて調整中。死を目前にした三岸の不可思議で華麗な夢を語る本作が加われば、一層輝きを増した画業の全貌が姿を現すことで

幕末の開港と時を同じくして、日本にもたらされた写真は、新たな視覚と現実感を映し出しました。本展では、東京都写真美術館を中心とした共同企画館による、北海道、東北の公共機関の持つ写真作品、資料を調査、研究をもとに、それらの収蔵作品や、東京都写真美術館および本大学芸術学部の収蔵作品をあわ

せ、現存する幕末～明治期の貴重なオリジナルの写真作品、資料を体系化して展示します。新発見や多くの未公開作品を含んで、日本の写真史の新たなページをひらくべき、19世紀の日本人の姿を、観覧者の眼前に躍動させることでしょう。

函館美術館

夜明けまえ
知られざる日本写真開拓史

函館美術館

5月18日(土)～7月14日(日)

大正末から昭和初期、貪欲に絵画の新潮流を摂取し画壇をかけぬけた三岸好太郎（1903～1934年）。31歳の短い生涯ながら、その画業は日本近代美術史に光を放ち続けて

また同じく晩年の人気作「雲の上を飛ぶ蝶」（1934年、東京国立近代美術館蔵）も出品に向けて調整中。死を目前にした三岸の不可思議で華麗な夢を語る本作が加われば、一層輝きを増した画業の全貌が姿を現すことで

幕末の開港と時を同じくして、日本にもたらされた写真は、新たな視覚と現実感を映し出しました。本展では、東京都写真美術館を中心とした共同企画館による、北海道、東北の公共機関の持つ写真作品、資料を調査、研究をもとに、それらの収蔵作品や、東京都写真美術館および本大学芸術学部の収蔵作品をあわ

せ、現存する幕末～明治期の貴重なオリジナルの写真作品、資料を体系化して展示します。新発見や多くの未公開作品を含んで、日本の写真史の新たなページをひらくべき、19世紀の日本人の姿を、観覧者の眼前に躍動させることでしょう。

函館美術館

夜明けまえ
知られざる日本写真開拓史

函館美術館

5月18日(土)～7月14日(日)

大正末から昭和初期、貪欲に絵画の新潮流を摂取し画壇をかけぬけた三岸好太郎（1903～1934年）。31歳の短い生涯ながら、その画業は日本近代美術史に光を放ち続けて

また同じく晩年の人気作「雲の上を飛ぶ蝶」（1934年、東京国立近代美術館蔵）も出品に向けて調整中。死を目前にした三岸の不可思議で華麗な夢を語る本作が加われば、一層輝きを増した画業の全貌が姿を現すことで

幕末の開港と時を同じくして、日本にもたらされた写真は、新たな視覚と現実感を映し出しました。本展では、東京都写真美術館を中心とした共同企画館による、北海道、東北の公共機関の持つ写真作品、資料を調査、研究をもとに、それらの収蔵作品や、東京都写真美術館および本大学芸術学部の収蔵作品をあわ

せ、現存する幕末～明治期の貴重なオリジナルの写真作品、資料を体系化して展示します。新発見や多くの未公開作品を含んで、日本の写真史の新たなページをひらくべき、19世紀の日本人の姿を、観覧者の眼前に躍動させることでしょう。

函館美術館

夜明けまえ
知られざる日本写真開拓史

函館美術館

5月18日(土)～7月14日(日)

大正末から昭和初期、貪欲に絵画の新潮流を摂取し画壇をかけぬけた三岸好太郎（1903～1934年）。31歳の短い生涯ながら、その画業は日本近代美術史に光を放ち続けて

また同じく晩年の人気作「雲の上を飛ぶ蝶」（1934年、東京国立近代美術館蔵）も出品に向けて調整中。死を目前にした三岸の不可思議で華麗な夢を語る本作が加われば、一層輝きを増した画業の全貌が姿を現すことで

幕末の開港と時を同じくして、日本にもたらされた写真は、新たな視覚と現実感を映し出しました。本展では、東京都写真美術館を中心とした共同企画館による、北海道、東北の公共機関の持つ写真作品、資料を調査、研究をもとに、それらの収蔵作品や、東京都写真美術館および本大学芸術学部の収蔵作品をあわ

せ、現存する幕末～明治期の貴重なオリジナルの写真作品、資料を体系化して展示します。新発見や多くの未公開作品を含んで、日本の写真史の新たなページをひらくべき、19世紀の日本人の姿を、観覧者の眼前に躍動させることでしょう。

函館美術館

夜明けまえ
知られざる日本写真開拓史

函館美術館

5月18日(土)～7月14日(日)

大正末から昭和初期、貪欲に絵画の新潮流を摂取し画壇をかけぬけた三岸好太郎（1903～1934年）。31歳の短い生涯ながら、その画業は日本近代美術史に光を放ち続けて

また同じく晩年の人気作「雲の上を飛ぶ蝶」（1934年、東京国立近代美術館蔵）も出品に向けて調整中。死を目前にした三岸の不可思議で華麗な夢を語る本作が加われば、一層輝きを増した画業の全貌が姿を現すことで

幕末の開港と時を同じくして、日本にもたらされた写真は、新たな視覚と現実感を映し出しました。本展では、東京都写真美術館を中心とした共同企画館による、北海道、東北の公共機関の持つ写真作品、資料を調査、研究をもとに、それらの収蔵作品や、東京都写真美術館および本大学芸術学部の収蔵作品をあわ

せ、現存する幕末～明治期の貴重なオリジナルの写真作品、資料を体系化して展示します。新発見や多くの未公開作品を含んで、日本の写真史の新たなページをひらくべき、19世紀の日本人の姿を、観覧者の眼前に躍動させることでしょう。

函館美術館

夜明けまえ
知られざる日本写真開拓史

帯広美術館

20世紀のプリントアート

6月8日(土)～8月28日(水)

北海道立帯広美術館は、版画やグラフィック・デザイン、写真などを用いた広範なプリントアートを収集方針のひとつとしています。「版」や「型」を媒介とした印刷・複製技術を用いた美術作品は、20世紀以降、多様な展開を見せます。

ジエームズ・ローゼンクイスト、サム・フランシス、フランク・ステラらの従来の「版画」の枠組みに収まりきらない作品



矢柳剛《男と女(1)》1977年 北海道立帯広美術館蔵

釧路芸術館

開館15周年記念
重要文化財「正行寺」

10月3日(木)～11月27日(水)



復元された正行寺の襖絵「松鶴図」

「塗り」という日本で唯一ここだけに残る珍しい技法で松鶴図が描かれており、文化財

修復の第一人者で日本画家の馬場良治氏によつて新たな襖絵が復元制作され

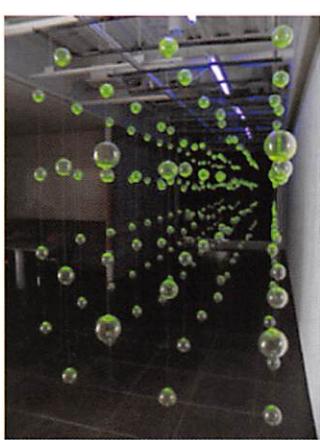
修復の第一人者で日本画家の馬場良治氏によつて新たな複元制作されました。

本展では、この新旧の複数を比較展示し、江戸期障壁画の絵画様式と今日の復元技術でよみがえつた美しい世界、そして華麗な本堂の建築美と装飾意匠を紹介します。

本郷新記念札幌彫刻美術館

柿崎均展—光とかたち—
6月15日(土)～8月25日(日)

彫刻という粹組みにとらわれず、新たな表現に意欲的に取り組む北海道の中堅作家



柿崎均〈ギャラリー創での展示〉2012年

札幌芸術の森美術館

生誕100年 彫刻家佐藤忠良展
4月13日(土)~5月26日(日)

佐藤忠良（1912～2011）の彫刻は、リアリズムを基本としながら、常に深いヒューマニズムに根ざし、人間の本質を見つめようとする姿勢が息づいています。その

依頼制作によるトロフィーやメダルなど、宮城県美術館が所蔵する作品や資料を中心的に約350点を展示します。また、7歳から20歳までを過ごし、第二の故郷として愛着を持っていた北海道との関わりを、映像や資料、野外彫刻のエスキースなどを通じて浮き彫りにすることも試みます。北海道が育んだ佐藤忠良の作品世界を心ゆくまでご堪能ください。



《帽子・夏》1972年
宮城県美術館蔵
photo by Norihiro Ueno

本展は、近年柿崎均が手がけている発光するウランガラスを用いたインスタレーション作品を中心構成されます。複数の作品で、空間に広がりを与える。まるで光の道標のように人々をいざないます。私たちとは、薄暗い展示室の中で、視覚と共に他の感覚をも刺激されるのです。

日差しが照りつくる季節とは対照的な優しく、美しく発光するウランガラスの造形が作り出す幻想的な世界を体感してください。

MUSEUM CALENDAR

美術館の特別展覧会ご案内

2013.4~2013.10

	4	5	6	7	8	9	10
近代美術館	4/3~4/14 (貸館) 第80回記念独立展 北海道展	4/27~6/2 いわさきちひろ展	6/8~6/16 シャガール展 プリベイエント まあるく シャガール	6/29~8/25 シャガール展		9/6~9/23 星星會展 -日本画の伝統と 未来を考える-	10/1~11/24 森と湖の国 フィンランド・デザイン
					TEL 011-644-6883	http://www.aurora-net.or.jp/art/dokinbi/	
美三岸好太郎館		4/6~6/23 所蔵品展第1期+特別展示 「三岸好太郎と北海道の独立展の作家たち」		6/29~9/8 所蔵品展第2期 「絵から飛びだしておいで!」(仮称)		9/14~11/17 特別展 「生誕110年記念 三岸好太郎展」	
		TEL 011-644-8901		http://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/mkb/			
旭川美術館	~4/7 「木の造形 100選」展	4/19~5/29 「やなせたかしと 『詩とメルヘン』の なかまたち」展	6/7~7/17 「画家岸田劉生の軌跡」展	7/26~9/8 「奇才・ダリ版画展」 あなたはこの夢幻から ぬけだせるか		9/9~11/15 改修工事のため休館	
		TEL 0166-25-2577		http://www.dokyoi.pref.hokkaido.jp/hk-asamu/			
函館美術館	4/3~5/9 ミュージアム・ コレクション・スペシャル 函館浪漫紀行 ~四季の彩・異国の趣~	5/18~7/14 夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史 (北海道・東北編)		7/24~9/8 ユトリロ展		10/5~11/14 上田義輔・金子龍亭・森原愛郎 ~現代書一北に輝く三星~ (仮称)	
		TEL 0138-56-6311		http://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/hbj			
帯広美術館		4/12~6/1 画家 岸田劉生の軌跡 油彩画・表丁画・水彩画などを中心に		6/8~8/28 20世紀のプリントアート展		9/7~11/13 日本アニメーション美術の創造者 山本二三展 天空の城ラピュタ、火垂るの墓、時をかける少女	
		TEL 0155-22-6963		http://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/obj			
釧路芸術館	4/12~5/29 釧路芸術館所蔵 18人の写真表現 焼きつけられたイメージ		6/7~7/17 奇才・ダリ 版のグラフィズム展	7/26~9/23 花鳥風月 花と緑の日本画展		10/3~11/27 重要文化財 「正行寺」 よみがえった襖絵展	
		TEL 0154-23-2381		http://www.kushiro-artmu.jp			
札幌藝術館	4/13~5/26 生誕100年 彫刻家 佐藤忠良展	6/1~7/7 ロペール・ドアノー 写真展	7/13~9/8 マンガ王国北海道(仮称)			9/14~11/24 高橋コレクション Best Selection(仮称)	
		TEL 011-591-0090		http://sapporo-art-museum.jp/			
札幌郷彫刻新記念館		4/20~6/9 コレクション展 顔・貌・かお		6/15~8/25 柿崎 均 展 -光とかたち-	8/28~9/8 (貸館) 中橋 修 展	9/14~11/17 ハルカヤマ・サテライト	
		TEL 011-642-5709		http://www.hongoshin-smos.jp/			

ご入会ありがとうございました

新会員紹介

2012年8月~2013年2月(敬称略)

8月

札幌市 小柴裕子
〃 玉木夕子
〃 宮崎公子
〃 早川尚子
〃 高橋一穂
〃 久保雅司
〃 竹浪治子
〃 加藤祥子
〃 松田幸枝
〃 山本幹子
〃 板倉まゆ
〃 大場弘志
〃 大場実佳子
〃 佐藤信子

札幌市 小松直喜
〃 小松ゆり子
〃 粟田くみ子
〃 吉岡保子
〃 近藤龍夫
江別市 林誠
〃 林まゆみ
函館市 阿部照子
旭川市 谷山翔二
帯広市 小泉千鶴子
余市町 宮武秀泰
遠別町 樋口直子
札幌市 小林信一

札幌市 森友道宏
〃 石丸道雄
〃 田橋清隆
〃 出爪侑子
〃 笹岸久美
〃 花里華枝
〃 吉藤操
函館市 土橋紀子
横浜市 宮和典

札幌市 逸見寿美子
〃 高橋國夫

平成25年1月

札幌市 林孝英
恵庭市 岡義人

11月

札幌市 前田晶子
〃 潤山明夫
〃 潤山待子
〃 平井弘子
〃 伊藤宏邦
〃 山田享
〃 山口由加利
旭川市 釋とみ江

2月

札幌市 吉江志起子
〃 小石千賀子
〃 桐川実
〃 石川智恵美
〃 中川正博
〃 大井惠子
〃 仲井八代
〃 仲丸千恵子

10月

札幌市 近藤直美
〃 渡辺玉枝

12月

札幌市 金正子

近代美術館開館35周年を記念して 藤田嗣治の自画像を贈呈

藤田の自画像『家族の肖像』（縦17.5cm×横12.5cm油彩）が、美術館協力会から寄贈され、平成24年9月15日の「藤田嗣治と愛書都市パリ」展の開会式に先立ち、贈呈式が行われた。

この自画像は、藤田作品の相続人から当協力会が購入したもので、先頃亡くなつた藤田夫人の手元に最後まで置いてあつた貴重な作品である。



『家族の肖像』吉野会長から相馬館長へ贈呈

藤田はパリ画壇の寵児となつた戦前、そして戦後フランスに永住してからも自画像を多数描いた。藤田は君代の父、嗣章88歳、「君代17歳」の記述があり、さらに「フジタ1954年68歳」の書き込みがある。



制作された54年は、藤田が君代と正式に結婚した年であり、翌55年にはフランス国籍を取得、さらに59年には洗礼を受けたカトリック教徒になるなど、社会的にも精神的にもフランスに同化し、フランス人として生涯を終える決意をした時期にある。その意味からも小品ではあるが、戦後の藤田を語る上で欠かせない歴史的価値のある作品である。



全道美術協会賞・道美術館協力会賞 受賞作品『希望』
福田 亨(おといねっぷ美術工芸高)

ている。この作品は戦後の1954年に描かれたものだが、他の自画像とは一線を画す重要な意味が込められている。

その理由は、背景に描かれた二つの肖像にある。画面右上に描かれているのは、この作品が描かれる13年前に88歳で亡くなった父嗣章の肖像であり、左上の女性は最後の伴侣となつた君代夫人で、知り合う前の17歳の姿で描かれている。画面には「私の父、嗣章88歳」「君代17歳」の記述があり、さらに「フジタ1954年68歳」の書き込みがある。

受賞作は、絶望を表す暗崖の画面右隅に、希望の象徴「白い蝶」を配した油彩画。闇を描きながらも丁寧な画面処理、精密な描写と緻密な画面構成で深い思索を窺わせ透明感のある作品に仕上げている。

表彰式では「仲間とともに刺激し合いながら作品を仕上げることが出来た。皆さんも仲間を大切に制作に励んで欲しい」と参加者に呼びかけた。

第6回道展U21 平成25年2月8日～11日 札幌市民ギャラリー



道美術館協力会賞 受賞作品
『瞬間的ひらめき』
小原 亜均(札幌西高)

「道展U21」は、道内の美術を志す15歳から21歳までの若者を対象とする北海道美術協会主催の公募展であり、当協力会では後援団体として名を連ねるとともに、優秀作品一点に賞品として盾を提供している。

今年2月7日に平面、立体合わせて757点の入選、入賞作品が発表され『北海道美術館協力会賞』には、札幌西高等学校の小原亜均さんの油彩画『瞬間的ひらめき』が選ばれた。

第54回学生美術全道展 平成24年10月6日～9日 札幌市民ギャラリー

道内の大学生、高校生を対象とした

公募展で、最高賞の全道美術協会賞・

北海道美術館協力会賞は、おといねっぷ美術工芸高校3年福田亨さんの絵画『希望』に贈られた。応募総数302点（入賞、入選242点）絵画、版画、彫刻、工芸の4部門の中から選ばれた。

上隅に、希望の象徴「白い蝶」を配した油彩画。闇を描きながらも丁寧な画面処理、精密な描写と緻密な画面構成で深い思索を窺わせ透明感のある作品に仕上げている。



全道美術協会賞・道美術館協力会賞 受賞作品『希望』
福田 亨(おといねっぷ美術工芸高)

美術に親しむ小学生



協力会設立30周年を記念し、子どもたちの美術や美術館への興味、関心を高めてもらうために企画された「子ども美術鑑賞事業」も今年で（平成24年12月12日）3回目。

今回は札幌市立旭小学校の6年生58名を美術館に招待しました。子どもたちは4班にわかれボランティアによる解説ツアーに参加し常設展示室の「エコール・ド・パリの古典流儀」や「クリスタル・ガラスの輝き」などの作品を熱心に鑑賞。その後は特別展示室のA★MUSE★LAND☆TOMORROW2013「サークル○オブ○アート」を見学し美術に触れたひとときを楽しみました。

第31回 海外美術研修旅行

2012.9.7~9.16



美の探訪

南ドイツの美の宝庫を訪ねて



フランクフルト



ローテンブルク



ミュンヘン

アルテピア
ニュース

ジュニア・アートクラブ2012 モザイクタイルで動物を作ろう



平成24年11月3日（土）近美2階造形室でジュニア・アートクラブが行われました。講師は彫刻家・造形作家の原田ミドー氏。

参加者は募集人数を大きく超えた小学生55人。

子どもたちはギャラリー鑑賞の後、原田氏の魅力たっぷりな説明によりカラフルなタイルを組み合わせて犬、猫、ウサギなどのタイル画を作りました。

出来上がった作品は館内に展示されました。



編集だより

会員の皆様、アルテピア62号は楽しんで頂けましたか。

大雪と氷点下の気温が長く続いた厳しい冬がようやく終わり芽吹きの春を迎えました。今号の編集会議中は白一色の冬景色。

今は雪がとけて足元も軽くなり、近美へ通う道すがら季節の移ろいを感じます。もうすぐ春本番ですね。ミュージアム・カレンダーをご参考に各地の美術館巡りなどいかがですか。

当協力会は、4月から法人制度改革により一般社団法人に移行します。今後とも宜しくお願いいたします。

(N)

おくやみ

当協力会の副会長、山口節子氏は平成24年12月16日にご逝去されました（享年72）。

山口氏は、当会創設時から平成10年3月まで売店部や事業部のボランティアとして活動され、その実績が評価されて平成10年6月から理事、平成17年6月からは副会長を歴任され、当会の運営に多大なご尽力されました。

心からご冥福をお祈りいたします。